

再生ガラス 軽くてもたっぷりと

そばに置きたい



再生ガラスのコップ（木下穰二作） 直径約8・5センチ、高さ約13センチ。税抜き1900円。問い合わせは福岡県朝倉市の工芸店「秋月」（電話0946・25・1270、火曜定休）へ。

外山亮一撮影



暖かくなってきました。たっぷりとしたガラスのコップで、ミントティーなどの冷たい飲み物はいかがでしょう。

素朴な味わいがある再生ガラスのコップを紹介します。窓ガラスなどに使われる板ガラスが原料で、縁にエメラルドグリーンの色があらわれます。コバルトで青い色をつけたコップもあります。

つくっているのは和歌山県のガラス職人、木下穰二さん。大学卒業後、再生ガラスで有名な沖繩の奥原硝子製造所に入り、現代の名工にも選ばれた故桃原正男さんのもとで技術を学びました。

修業中は先輩から「玉取り3年」と言われたそうです。

吹きさおの先にガラスを巻き取り、均一の厚さに吹くのは早い人でも3年は要するという意味です。木下さんは桃原さんらの作業をみながら、その技術を会得しました。

8年間の修業後、郷里の和歌山で独立しました。沖繩で学んだ玉取りの正確さに、本人の丁寧な性分が加わり、コップは完成しました。持つと見た目よりも軽く、ゆったりとした気持ちにさせてくれます。海を越えて技が引き継がれています。

（もやい工芸スタッフ

堀沢三香

堀沢さんの連載は今回で終わりです。